

制定過程 県議会ヒリヒリ

参考人招致 議事録から削除 要求の発言

フェロシルト「お墨付き」条例



石原産業の産業廃棄物だったフェロシルトに、リサイクル製品のお墨付きを与える形になった県リサイクル製品利用推進条例の制定過程をめぐり、県議会が神経をとがらせている。萩原量吉議員（共産）が一般質問で、条例制定に熱心だった最大会派・新政みえの元県議の参考人招致を求めたところ、同会派の三谷哲央代表が、萩原議員の発言に出てきた個人名、会派名の削除を要求。もめたあげくに議事録から招致の要求自体が削除される異例の事態になった。（小泉浩樹）

「（招致を求められた）2人、新設みえが県当局に働きかけて、フェロシルトを原料にできるような、条項をなくしたようにとれる発言だ。本会議はテレビやインターネットで中継している。発言の重み、影響を考えてもらいたい」

三谷議員は6日の議会運営委員会でもめる萩原量吉議員（左）と三谷哲央議員（右）＝津市の県庁

委員会でもう気色ばんで、議事録から、萩原発言の削除を求めた。

4日の一般質問。萩原議員が参考人招致を求めたのは、元県議で参院議員の芝博一氏と、07年の県議選で落選した田中寛氏。

萩原議員は01年の同条例施行規則の制定過程で、フェロシルトなど特別管理廃棄物をリサイクル製品の原料に認めない条項が途中で消えた、と指摘。

「当時の県担当者がどのような打ち合わせをしたか、側面を追求したところ、打ち合わせのメモはないが、芝議員にはちゃんと報告しましたと言われた」などと発言。

さらに、「当時の田中寛議員から、特別管理廃棄物についても中間処理すればリサイクル可能であることをはずす必要はないというような電話があったとの議会のメモまであ

る」と続けた。

この発言に、三谷議員が議事録を求めると、議場は一瞬騒然となった。

6日の議会運営委員会も混乱が続いた。萩原議員が「発言は情報公開などで手に入れた資料などに基づき、すべて事実だ。県は（2人を含めた）議会側に責任をなすりつけており、県の責任を問うたにも2人の参考人招致を求めた」と主張。途中休憩を挟み約1時間半にわたって、発言を削れ、削るなどの議論が続いた。

舟橋裕幸委員長が「芝、田中寛氏」の発言に、自民県議が求めた96年以来という。

中岡氏の参考人招致を求める「この発言のみを削除する折衷案を提案し、ようやく収まった。

三谷議員が「参考人招致をやれば2人は疑惑の人。提案を了とする」と認めると、萩原議員も「議会人として議事運営を円満に図るために取り扱いは任せる」とトーンダウンした。

県議会の議事録から発言が削除されるのは、共産県議の「議会運営のルールやモラルに若干もとの発言があった」との発言に対し、自民県議が求めた96年以来という。

ヒ素、基準の140倍

石原産業 全46地点 汚染確認

石原産業四日市工場の土壌汚染問題で、同社は6日、ボーリング調査をした46地点のすべてから、国の環境基準を超える有害物質を検出したと発表した。四日市市は9日、

同社を立ち入り調査し、有害物質の飛散防止策が取られているかなどを点検、対策を指導する。

ヒ素は46地点で、環境基準の最大140倍（1辺あたり

1・4ミクログラム）、フッ素は33地点で、最大150倍（同120ミクログラム）を検出。鉛、カドミウム、六価クロムなど計7種類の有害物質が検出された。

また、46地点以外にタンクと倉庫の建設予定地からもフッ素や鉛などが検出された。

石原産業によると、戦前から60年代まで稼働していた銅精錬工場や硫酸工場で発生した鉱滓を野積みしていたことなどが原因。最大84倍（同4・2ミクログラム）の六価クロムが検出された地点の周辺は、05年ごろまでフェロシルトの仮置き場だったことが原因と

いう。

ボーリング調査は、同社が一連の不正後に設置した第三者機関・環境専門委員会（委員長・大東憲二大同工業大学教授）が、地下水、土壌汚染を調べるために昨年7月から今年2月にかけて実施。同社は「従業員や周辺へのリスク調査をしようとして、早急に対策を取る」としている。